

資料 4

Tansa（タンサ）は探査報道（調査報道）に特化したジャーナリズム組織。

Tansa は、地方創生臨時交付金（第 1・2 次補正予算で計上された約 3 兆円分に限る）の使い方 65000 事業をデータベース化。

全国の無駄遣いワースト 100 事業を報じたが、その中に桂川町の二つの事業が入っている。

78. 福岡県筑前町 510万円 巨大わらかがしの制作と花火の 打ち上げ	82. 福岡県みやま市 38万円 ゆるキャラ「くすっぴー」の デザイン制作
79. 福岡県桂川町 50万円 定額給付金が受けられない学生 の保護者に10万円を給付	83. 佐賀県佐賀市 520万円 テレメーターによる 浸水状況の確認の自動化
80. 福岡県桂川町 363万円 電子ディスプレイの設置	84. 佐賀県佐賀市 739万円 ICT塩分測定器の設置

1. 海外留学中で国の特別定額給付金が受けられない学生の保護者に10万円を給付	50万円
2. 県道沿いに、感染症情報を発信する電子ディスプレイを設置	363万円

2については次のように詳しく報道している。

福岡県は、地方創生臨時交付金 363 万円を使って、県道 66 号の交差点に電子ディスプレイを設置した。手洗いやうがいなどコロナの感せん予防を促すためだ。

ディスプレイを設置した交差点は、人口約 13400 人の桂川町にある。県総務課の担当者によると、周囲に学校や役場、図書館などがあり、通勤の時間帯は交通量が多い。これまでの感染状況や予防喚起については広報誌や防災無線で行っていたが、市民が恒常的に目にするツールを増やすことが目的だという。

ディスプレイでの「緊急事態宣言発出中」は、人気アニメ「新世界エヴァンゲリオン」に似ている太いフォントだ。

ただ、感染予防を促す情報だけ流しては住民が飽きるのではないかということから、現在は交通安全の呼びかけも兼ねている。